

2022年度  
履修要項



西武文理大学  
サービス経営学部



# 目 次

学部長からのメッセージ ― サービス経営学部で学ぶということ ―	5
----------------------------------	---

## 第 1 部 サービス経営学部における学修

1. 大学の目的	8
2. サービス経営学部の教育目的：豊かな人間性を持つ、実践的で柔軟な職業人の育成	8
3. 学科・コースの目的	8
4. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）	9
5. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）	12
6. 教育課程の特長	12

## 第 2 部 履修説明

I 学期と授業	16
1. 学期とセメスター制	16
2. 授業時間	16
3. 平常授業	16
4. 休 講	16
5. 補 講	16
6. 授業の受講に関する留意事項	16
II 学科とコースの選択	18
1. 学科、コース	18
2. 学科の選択と所属学科の決定	18
3. 2 年次からの学修の進め方	18
4. 転学科	19
III 単位制と卒業要件	20
1. 単位制とは	20
2. 1 単位当たりの授業時間	21
3. 修得した単位について	21
4. 履修単位の上限設定（キャップ制）について	22
5. 卒業の要件	22
6. 必修科目不合格者の履修について	22
IV 履修登録	23
1. 「履修登録」とは	23
2. 履修登録の前に	23
3. 履修登録の方法	23
4. 履修登録にあたっての注意事項	23
5. 履修登録科目の取り消し	24
6. 履修登録科目の解除	24
7. 他学科の専門科目の履修	24
8. 他の大学における単位の修得 ― 単位互換制度 ―	25

V	成績評価	26
	1. 成績評価を受けるための前提	26
	2. 成績評価方法	26
	3. 評価基準	26
	4. 成績評価試験	27
	5. 追試験	28
	6. 再試験	28
	7. 不正行為	29
	8. 成績評点平均点制 (GPA)	30
	9. 成績の通知	31
	10. 成績の照会	31
	11. 卒業認定	31
VI	大学から学生への情報の伝達	32
	1. 学内掲示とトリプルエーの活用	32
	2. Web メール：Active! Mail	32
VII	「演習（ゼミナール）」	33
	1. 「演習（ゼミナール）」とは	33
	2. 「基礎演習（基礎ゼミ）」	33
	3. 「専門演習（専門ゼミ）」の選択	34
	4. 「卒業研究」について	34
	5. 卒業研究報告書	34
VIII	履修計画	36
	1. 4年間のカリキュラムと履修計画	36
	2. 体系的に学修を進めるための授業科目の配置	36
	3. 各コースの履修について	37
	(1) サービス経営学科	37
	(2) 健康福祉マネジメント学科	38
	4. 資格取得指定科目	39
 <b>第3部 授業科目</b>		
	授業科目構成と卒業要件単位	45
	S221	45
	S223	51

## 学部長からのメッセージ

### —— サービス経営学部で学ぶということ ——

サービス経営学部長 高 瀬 浩

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんには、大学生として自分を信じて夢を描き、高い理想を持って大学生活を歩んでほしいと思っています。そこで、サービス経営学部で学ぶことの意味について少しお話いたします。

大学は、「自律的」に、「協調的」に、そして「創造的」に、「学ぶ力」を身につけるところです。「自律的に学ぶ力」とは、自らの可能性を自ら選んでそれを追い求める力です。すなわち、皆さんが自ら描く夢を実現させていくために必要な力です。自身が描いた夢は、大学を卒業して社会に出て生涯にわたって追いつけるものです。その基礎を大学時代にしっかりと築かなければなりません。私たち大学の教職員は、その手伝いをすることが仕事です。

自律的に学ぶ力をつけるためには、皆さんは自らわかろうとする姿勢を身につけることが大切です。すなわち、真理を追究し真に納得するまで問い続ける姿勢を習慣化するということです。

大学では、次の二つのことを手掛かりとして自らわかろうとする姿勢を身につけてほしいと思います。

第一は、皆さんを取り巻く社会や文化の中で、知識そのものの価値や役割をしっかりと理解することが重要です。過去・現在・未来へと続く歴史的プロセスの中で、世の中は常に変化しています。新しい未知の課題に挑戦するためには、その土台となる知識がとても大切です。一生懸命頑張っている人が幸せだと感じる社会は、知識を基盤として挑戦していく社会だと思うからです。

第二は、自分自身をわかろうとしてください。自分には今何が必要で、何ができるようになりたいのか、自ら学ぶべきことを選び、その学びの意味を自覚するためにも、自分のことをわかろうとすることが大切です。いまの自分自身の力を知り、それを社会で通用するものにまで高めることを目指してほしいと思います。

\* \* \*

サービス経営学部では、日本や世界のサービス産業を担う人材の育成を使命とし、そのための授業のメニュー（これを大学では「カリキュラム」といいます）を準備しています。本学部のカリキュラムの特徴の一つは、講義と体験学修を4年間にわたって「サンドウィッチ」のように繰り返し学べるという点です。このサンドウィッチ学修は、学ぶ意欲を高めて教室での講義を楽しいものにしなが、真理を追究することの意味を感じてもらうためのものです。

1年次には、ホスピタリティ概論やサービス・マネジメント論などの講義科目と、さまざまな体験・実習科目を用意しています。これらの体験・実習科目には、ブライダルプロジェクト、映画祭への参加、スポーツを通じての地域貢献、ボランティア活動などの体験学修プログラム、販売士、簿記、宅建などの資格を通じて必要な知識を獲得する総合演習プログラム、フィールドワーク、海外フィールドワーク、インターンシップなどがあります。これらの中でも体験学修プログラムは皆さんがモノの見方や生き方を協調的に学ぶ力をつけることができるもので、本学部が特に力を入れている科目です。

体験学修プログラムは、三つの特徴があります。

第一は、「仕事で学び、社会に教わる」という点です。これは、仕事の現場や社会の中で必要とされる力を知ることです。学びは大学の中だけのものではありません。社会に出ておおいにチャレンジしてください。仕事の中で学び、社会に教えを乞うことが大切です。

第二は、「先輩や仲間と一緒に問題を解決する」という点です。これにより、「チームで働く力」が身につきます。チームで働くことで仲間のよき振る舞いを見て真似をしたり、課題を解決するために話し合ったり、力を合わせたりすることが学べます。話し合いを通して協調的な学びに参加してほしいと思います。

第三は、「プロジェクトのミッション(任務)のクリアを目指す」という点です。これにより、「責任」と「貢献」が身につきます。仕事にはミッションとゴールがあります。ミッションをクリアしゴールにたどり着くプロセスにおいて、与えられた仕事の責任を果たしていく中で、「いい仕事をしたい」という気持ちが生まれ、貢献する姿勢が身につくのです。

2年次からは、学科別の学びと基礎演習(ゼミナール)が始まります。サービス経営学部は、サービス経営学科と健康福祉マネジメント学科から成ります。サービス経営学科は、ホスピタリティ・ツーリズムコース、サービス・マネジメントコース、グローバル経済コースの3コースがあります。健康福祉マネジメント学科は、社会福祉コースと健康サービスコースの2コースがあります。これらのコースは、皆さんが関心を持った分野の専門家になるための「道すじ」ですが、どのコースにするかは、学生自らが関連科目の履修選択により形成していくものです。高い専門性を養うために、コースモデルに沿って履修をすることを勧めます。学科内であれば2つのコースを選択することもできます。皆さんは自らの関心と意欲を持って学科とコースを選択してください。

3年次・4年次は、大学での学びを「専門演習」や「卒業研究」などのゼミナールで統合させることを意識してください。統合のプロセスは創造的な力を身につけるチャンスです。創造的な力を養うには、専門的な知識と体験学修で培ったチームで働く力などに加えて、幅広い教養やコミュニケーション力との融合が必要です。そして、大学での学びの集大成として卒業研究報告書にまとめます。このように皆さんは自ら描く夢に向かって自律的に、協調的に、そして創造的に、大学での学びを楽しんでください。日本、そして世界のサービス・ホスピタリティの舞台で活躍する人材として育つことを期待しています。

第1部

サービス経営学部における学修

## 1. 大学の目的

本学は、学生に幅広い教養教育を授けるとともに、サービス経営及び看護学に関する専門学術の理論と実践的応用を教授研究し、不撓不屈の精神と、報恩、誠実、奉仕の心をもって、社会の発展に寄与する学力と見識を有する人材を育成することを目的としています。

## 2. サービス経営学部の教育目的：豊かな人間性を持つ、実践的で柔軟な職業人の育成

西武文理大学サービス経営学部では、「豊かな人間性を持つ、実践的で柔軟な職業人」を育成することを目的としています。

「豊かな人間性」とは、どんな環境や情勢の中においても、ホスピタリティ精神を中心とする、他者との関係性や社会をより良いものにしていこうとする心や態度、性向を意味しています。

「実践的で柔軟な職業人」とは、社会の抱える問題点や課題に対して、時節に応じた対策を実践することによって問題解決できる専門職業人を指しています。

現在、サービス業は、製造業との両輪としてその役割は増えています。経済社会の急速な変化にともない、サービス産業の市場動向はめまぐるしく変化し、顧客ニーズも多様化しています。こうした社会情勢の中においては、急速な変化を読み取り素早くかつ的確に決断を下す判断力と、計画を遂行する実行力を兼ね備えることが強く求められています。

## 3. 学科・コースの目的

### (1) サービス経営学科

サービス経営学科は、サービス産業に従事するために必要な広範囲の専門的知識を有し、「収益性や効率性の向上」と「顧客の満足や感動の向上」とを調和的に統合しうる「マネジメント能力」と人間の尊厳の実現のために貢献する「ホスピタリティ精神」を兼ね備えた「豊かな人間性を持つ、実践的で柔軟な職業人」の育成を目的としています。サービス経営学科では、学修者の関心に基づく系統的な履修を支援するためコース制を採用し、「演習（ゼミナール）」により学びが統合されます。

#### ●ホスピタリティ・ツーリズムコース

ホスピタリティ・ツーリズムコースは、ホスピタリティ・ツーリズム産業に関連する学びを通じて、ホスピタリティ精神を有する「実践的で柔軟な職業人」の育成を目的としています。特に、ホスピタリティ産業で必要とされる知識、コミュニケーション・スキル、そしてサービス理論を身に付け、体験学修等によりそれらを学生が問題解決に応用できるようになることをねらいとします。産業を代表する4つの領域「ツーリズム」「ホテル・フード」「ブライダル」「メディア」をサブコースとして、学生による計画的な履修を促します。

#### ●サービス・マネジメントコース

サービス・マネジメントコースは、イノベーションやマーケティングに関連する学びを通じて、サービス産業における経営面での専門的知識を修得した「実践的で柔軟な職業人」の育成を目的としています。特に、サービス産業で必要とされる経営面の理論や知識、コミュニケーション・スキルを身につけ、ケースメソッド教授法及び体験学修等によりそれらを学生が問題解決に応用できるようになることをね

らいとします。「サービス・イノベーション」と「サービス・マーケティング」の2つの領域をサブコースとして、学生による計画的な履修を促します。

#### ●グローバル経済コース

グローバル経済コースは、世界及び都市・地域の経済に関連する学びを通じて、グローバルに活躍する能力を身に付けた「実践的で柔軟な職業人」の育成を目的としています。特に、グローバルに展開する企業あるいは都市・地域の経済の現場で必要とされる知識、コミュニケーション・スキル、経済理論を身に付け、体験学修等によりそれらを学生が問題解決に応用できるようになることをねらいとします。学修者の視点に応じて「グローバル経済」「都市・地域経済」という2つの領域をサブコースとして、学生による計画的な履修を促します。

### (2) 健康福祉マネジメント学科

健康福祉マネジメント学科は、「他者とともに暮らすこと」「どのように他者への支援を行うか」を「健康」「福祉」という分野を通して学ぶことにより、健康・福祉事業に従事するために必要な「専門的知識」「マネジメント能力」「ホスピタリティ精神」を兼ね備えた「実践的で柔軟な職業人」の育成を目的としています。健康福祉マネジメント学科では、「健康」「福祉」に関する系統的な履修を支援するためのコース制を採用しています。

#### ●健康サービスコース

健康サービスコースは、「健康」に関する基礎知識を身体面・精神面・社会面から体系的に修得し、サービス・ラーニングなどの体験学修等を通じて、現代社会や地域コミュニティにおける健康づくり全般に関する問題解決に貢献できるようになることを目的としています。健康・スポーツサブコースでは、「スポーツ」の理論と実践を学ぶことにより、健康サービス産業で必要とされるマネジメントスキル、コーチングスキル、道徳性などを身に付けます。心理・セラピーサブコースでは、人の「こころ」を人間性（ヒューマニティ）と科学（サイエンス）の両視点から学び、豊かな社会生活を送るために必要なカウンセリングマインドとデータ等による問題把握を図るためのリサーチマインドを修得します。

#### ●社会福祉コース

社会福祉コースは、社会の中で生活の様々な困難を抱える人に対して、社会福祉の専門職が支援を行う際に必要な知識・技術・価値・態度を体系的に獲得することを目的としています。そのために、座学にとどまらず実践を重んじます。その方法として実習や様々なフィールドワークを行います。社会福祉士サブコースは、国家資格である社会福祉士の取得を目指し、生活支援サブコースは、直接的に人を支援するのに役立つスキルの修得を目指します。

### 4. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

「ディプロマ・ポリシー（Diploma Policy：DP）」とは、各大学や学部・学科の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかについての基本方針のことです。これは、各学生の学修成果の目標ともなりますので、皆さんはこのポリシーを頭に入れて学修に励んでください。

## ■サービス経営学部 ディプロマ・ポリシー

サービス経営学部では、所定の期間在学したうえで、卒業要件となる単位を修得し、以下の能力を有する者に「学士（サービス経営学）」の学位を授与します。

### (1) 知識・理解

サービス経営学の学問内容及び方法を理解する。

### (2) 汎用的技能

学んだことや考察した結果を適切な手段によって適切に表現することができる。

### (3) 態度・志向性

学問の論理や体系に感心を持つとともに、学問的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察や実践に積極的に活用しようとする。

### (4) 総合的な学修経験と創造的思考力

- 1) サービスに関する多様な課題を発見し、問題を解決する能力等の思考力を身に付ける。
- 2) 社会の変化に対応できる力を身に付け、生涯に渡る自らのキャリア形成を含め、人生の目標に向かって努力実践できる。

2年次からは、サービス経営学部の学生は、本人の選択により、サービス経営学科または健康福祉マネジメント学科のいずれかの学科に所属します。

## ■サービス経営学科 ディプロマ・ポリシー

サービス経営学科では、所定の期間在学し、卒業要件となる単位を修得し、以下の能力を有する学生に対して、「学士（サービス経営学）」の学位を授与します。

### (1) 知の営みの構造・普遍的な知識・専門知識の理解と応用

#### 1) 知の営みの構造の理解

知識をどのように入手し、どのように創造していくか、という知の営みの構造を理解する。

#### 2) 普遍的な知識と自己の存在に対する理解

普遍的な知識を修得し、自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

#### 3) 専門的な知の理解と応用

サービス経営学の学問内容を体系的に理解し、普遍的な知識と総合して、これらの知識を知的生活、職業生活、社会生活において応用できる。

### (2) 汎用的技能の修得と活用

学んだことや考察した結果を、適切な手段によって適切に表現することができる。

#### 1) コミュニケーション・スキル

日本語を用いて、知的活動、職業活動、社会活動に十分なレベルで読み、書き、聞き、話すことができる。

#### 2) 数量的スキル

自然や社会の事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。

#### 3) 情報メディア・リテラシー

情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を適切に収集・分析して適正に判断するとともにモラルに則って効果的に活用することができる。

4) 論理的思考力

情報や知識を、複眼的、論理的に分析し、表現できる。

5) 問題解決力

問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。

**(3) 態度・志向性**

1) 自己管理・デザイン能力

目標意識と高い意欲を持ちながら、自らの時間、健康、感情、人生を管理・デザインすることができる。

2) チームワーク力

グループの目標において自らの役割を果たすことによってグループをチームに変えることができる。

3) リーダーシップ

メンバーの自己肯定感を高めてやる気を引き出し、グループを維持・形成・発展させ、グループの目標を達成することに導くことができる。

4) 倫理観

社会の規範やルールによって自らを律し、人として守らなければならない善悪の基準に従って行動できる。

**(4) 批判的思考に基づく、分析・評価・判断能力と創造的思考力**

批判的思考に基づく分析・評価・判断能力によって社会やサービスに関する多様な課題を整理して問題の本質を発見し、それらを創造的に思考することによって課題を解決することができる。

**(5) ホスピタリティ精神の修得とその実践**

ホスピタリティ精神を修得し、社会において実践できる。

**(6) 地域貢献力**

地域社会における多様な課題の解決のために、サービス経営学の専門的な知識及びホスピタリティ・ツーリズム、サービス・マネジメント、グローバル経済のいずれかの領域に関わる専門的な知識・技能を活用して貢献できる。

**(7) 国際的貢献力**

国際社会における多様な課題の解決のために、サービス経営学の専門的な知識及びホスピタリティ・ツーリズム、サービス・マネジメント、グローバル経済のいずれかの領域に関わる専門的な知識・技能を活用して貢献できる。

**(8) 学び続ける力**

社会の変化に対応できる力を身に付け、生涯に渡る自らのキャリア形成を含め、人生の目標に向かって努力実践することができる。

**(9) 市民としての社会的責任感**

社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。

**■健康福祉マネジメント学科 ディプロマ・ポリシー**

健康福祉マネジメント学科では、上記サービス経営学科の（6）と（7）の代わりに次の能力を有す

ることを目指してください。

#### (6) 地域貢献力

地域社会における多様な課題を理解し、その解決に向けて、サービス経営学の専門的知識及び健康・スポーツ・心理・福祉のいずれかに関わる領域の専門的な知識・技能を活用して貢献できる。

#### (7) 国際的貢献力

地域社会における多様な国際的な課題を理解し、その解決に向けて、サービス経営学の専門的知識及び健康・スポーツ・心理・福祉のいずれかの領域に関わる専門的な知識・技能を活用して貢献できる。

### 5. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

サービス経営学部では、サービス経営学の学修を通じて、「豊かな人間性を持つ、実践的で柔軟な職業人」を育成することを教育目的としています。こうした教育目的を実現するために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成しています。このような方針をカリキュラム・ポリシー（Curriculum Policy：CP）と言います。

- 1) 豊かな人間性を育む一般教育を基礎として、実践性と柔軟な思考力につながる専門教育を積み上げ、キャリア教育と演習（ゼミナール）により学びの統合を図るカリキュラムを構築する。
- 2) 一般教育では、「大学基盤科目（ホスピタリティとコミュニケーション理解科目）」の他、教養系の科目を「人間理解領域科目（含、体育・健康理解科目）」、「社会・自然・環境理解領域科目」、「情報科学理解領域科目」「外国語科目」に分類し、加えて大学での学修の基礎となるアカデミック・スキルにより学修を支援する。
- 3) 実践的で柔軟な専門科目の修得を支援することを目的として、2年次からの学科選択に合わせ、サービス経営学科では専門科目を、専門基幹科目と3つの専門コース科目群（「ホスピタリティ・ツーリズムコース科目群」、「サービス・マネジメントコース科目群」、「グローバル経済コース科目群」）に分類し、健康福祉マネジメント学科では、専門基幹科目と2つの専門コース科目群（「社会福祉コース科目群」、「健康サービスコース科目群」）に分類する。これは、学生の専門への関心にしがたがった系統的な履修を支援することを目的とする。
- 4) 社会的・職業的自立に向けた基盤となるキャリア教育としての「キャリア開発」を1年次からの必修科目とすることに加え、さらに経験値をあげるために体験・実習科目を選択必修とすることによって、アクティブな人材を育成する。体験・実習科目では、総合教育や専門教育などの講義で培った知識やスキルと体験による総合的な学修経験を得る。
- 5) 学修を段階的に統合するために2年次より演習（ゼミナール）を設置する。演習（ゼミナール）はコースに対応した「ホスピタリティ・ツーリズム」、「サービス・マネジメント」、「グローバル経済」、「社会福祉」、「健康サービス」の5分野を準備し、4年次の卒業研究で4年間の学修の統合として創造的な思考力の育成を目指す。

### 6. 教育課程の特長

サービス経営学部の教育課程の特長は、次のとおりです。

- 1) 本学の教育の基本理念であるホスピタリティとコミュニケーション理解を一般教育科目の中核として配置している。

- 2) 1年次からの体験・実習と講義との往復による総合的な学修経験により、自らの関心、チームワーク、協調的学修の経験から問題解決の方法などを発見できる。
- 3) 専門コース教育により系統的な学修を支援する。
- 4) 年次からのキャリア教育により「就業力」の育成を目指す。
- 5) 「演習（ゼミナール）」で学修の統合を企図している。

以下、全学共通科目の総合教育科目、学部共通科目の専門基礎科目ならびに統合領域科目の特長を説明します。

### ■一般教育科目・教養科目・全学共通科目

一般教育科目は、「大学基盤科目（ホスピタリティとコミュニケーション）」、「人間理解領域科目」、「社会・自然・環境理解領域科目」、「情報科学理解領域科目」に加え、「外国語科目」で構成されています。

とくに、「大学基盤科目（ホスピタリティとコミュニケーション）」では、本学の教育の基本理念でもあるホスピタリティ精神の醸成を目指し、ホスピタリティ概論、対人関係基礎、対人関係応用のほか、ホスピタリティ日本語やホスピタリティ・スキルズ等がコミュニケーション・スキルとして、この領域に位置付けられています。

### ■学部共通科目・専門基礎科目

サービス経営学部の学びの基礎となる科目として、1年次に「初級経済学」、「簿記論」、「産業論」、「基礎経営学」、「サービス・マネジメント論」を必修に、2年次以降のコース選択を意識して、関心に応じて、「マーケティング」、「会計学概論」、「中級経済学」を選択必修科目に位置付けています。

### ■学部共通科目・統合領域科目

#### ●キャリア教育科目

キャリア教育科目では、講義からだけではない実体験から得られる「経験値」を高め、学生のキャリア観や就業意識を早い段階から育成する狙いから、体験・実習科目を1年次からの選択必修とし、同時に2年次以降のコースでの「学修のイメージ」を涵養することにつなげています。

#### ●演習科目（ゼミナール）

2年次より「演習（ゼミナール）」を設けています。演習（ゼミナール）はコースに対応した「演習（ホスピタリティ・ツーリズム）」、「演習（サービス・マネジメント）」、「演習（グローバル経済）」、「演習（社会福祉）」、「演習（健康サービス）」の5分野を準備しています。4年次には、卒業研究により4年間の学修の総まとめを行います。

こうした特長を持ったカリキュラムは、皆さんが自ら学ぶ意欲をもって、「自ら気づき、自ら考え、自ら行動する」という自律性の育成をねらいとしています。大学在学中に様々なことに積極的に挑戦することによって、皆さんが主体的に問題を発見し、課題を抽出し、対応策を組み立てうる人材へと成長することを期待しています。





第2部  
履修説明

# I 学期と授業

## 1. 学期とセメスター制

本学では学年を次の2つの学期に分けています。

前期：4月～9月                      後期：10月～3月

授業科目の多くは、短期集中で学修効果の高い授業とするために、前期または後期のみの半期で完結します。これを「セメスター制」といいます。

なお、夏（8月～9月）と春（2月～3月）の休業期間中には、インターンシップ、集中講義、留学生・帰国学生のための日本語教育、補習授業などを実施することがあります。

## 2. 授業時間

授業は1時限を90分とし、次のとおり行います。

1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
9:30～11:00	11:15～12:45	13:30～15:00	15:15～16:45	17:00～18:30

## 3. 平常授業

学期の最初に提示される時間割表に従って行う授業を「平常授業」といいます。

授業に関する変更は、学内掲示及び学修管理システム「Active Academy Advance」（以下「トリプルエー」という）でお知らせします。

## 4. 休 講

大学の行事、教員の公務・出張等により授業を休みとすることがあります。これを「休講」といいます。休講については、学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

## 5. 補 講

休講した授業については、原則として補講を行います。

補講に関する詳細は、学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

なお、補講への出席も授業への出席回数に含まれますのでご注意ください。

## 6. 授業の受講に関する留意事項

大学は、社会に出る前の最後の教育機関です。そのことを自覚し、大学生として恥ずかしくない態度で授業に臨んでください。

とくに、授業に関して以下に該当する場合は、学則第53条に基づき懲戒処分の上、当該科目もしくはその学期のすべての履修登録が無効となる場合があります。また、担当教員の判断で、それ以降の授業への出席を認めない場合があります。

- ・学生として恥ずべき行動、大学の名誉を傷つける行為をした場合
- ・大学や授業の秩序を乱した場合
- ・大学や教職員の指示する安全や健康の施策に協力しない場合
- ・他の受講生や教職員の身体的安全あるいは精神的平安を脅した場合
- ・授業や授業準備の円滑な進行を妨げた場合、もしくはそれを幫助した場合
- ・授業の出欠確認に関する不正行為を実行、あるいは幫助した場合
- ・授業の出欠に関する届・願い・申請などの手続きにおいて虚偽や不正に関することを行った場合
- ・授業での提出物（課題・小テスト等）に関する不正行為（剽窃・カンニング等）を行った場合
- ・学則や学生規則を始めとする大学の定める規則に反した場合

『学生便覧』に掲載されている各種規則については、必ず目を通してください。知らなかった、聞いていないでは済まされません。

通学時間や休憩時間においても、授業時間に準ずるものとして、本学学生として相応しい行動を取ってください。

## Ⅱ 学科とコースの選択

### 1. 学科、コース

サービス経営学部の学生は、2年次から「サービス経営学科」又は「健康福祉マネジメント学科」のいずれかに所属します。

サービス経営学科には3つのコース、健康福祉マネジメント学科には2つのコースがあります。それぞれのコースの内容や専門への関心に従って学科を選択してください。

学 科	コース	サブコース
サービス経営学科	ホスピタリティ・ツーリズムコース	ツーリズム ホテル・フード ブライダル メディア
	サービス・マネジメントコース	サービス・イノベーション サービス・マーケティング
	グローバル経済コース	グローバル経済 都市・地域経済
健康福祉マネジメント学科	健康サービスコース	健康・スポーツ 心理・セラピー
	社会福祉コース	社会福祉士 生活支援

### 2. 学科の選択と所属学科の決定

学科の選択の準備は1年次後期から始まり、3月末に所属学科が決定します。

### 3. 2年次からの学修の進め方

2年次から各学科に所属して、それぞれのコースの専門分野の学修を深めていきます。

① コースは学科と違い、履修開始前に登録する必要はありません。

ただし、健康福祉マネジメント学科の社会福祉士サブコースのみ定員（20人）があり、履修開始前に登録が必要です。詳細は別途お知らせします。

② 学修をすすめるにあたり、1つのコースを主たるコースとして段階的に履修することを推奨します。しかしながら、はじめから1つのコースに絞ることができないときには、複数のコースを同時に履修しながら主たるコースを決めることも、また途中で主たるコースを変更することもできます。

③ 他の学科の科目を履修することもできます。

#### 4. 転学科

サービス経営学部内の他の学科への転学科を希望するときは、前年度の2月末日までに「転学部・転学科願」等の必要な書類を提出してください。詳細は学生サービス課で確認してください。

書類提出後、教授会の審査を経て、学長が転学科等の可否を決定します。

## Ⅲ 単位制と卒業要件

学生は、卒業に必要な単位を修得し、ディプロマ・ポリシーで定められている能力をつけたことが認められた場合、卒業することができます。

### 1. 単位制とは

単位制とは、進級・卒業に必要な学修量を「単位」として計算する制度です。

大学の単位制度への確実な理解は、大学生活において非常に大切な要素の一つですので、しっかりと理解しましょう。

#### (1) 1 単位と計算される学修の標準時間：45 時間

大学では、法律により、単位数を定めるに当たっては、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とする「単位制」が採用されています。つまり、1 単位修得するために標準的に 45 時間の学修量が必要だということです。

通常の科目は 2 単位ですので、一般的には一つ科目の単位を修得するには 90 時間の学修量が必要です。

授業時間：

1 コマ 2 時間（正味 90 分を 2 時間と計算）× 15 週 = 30 時間

事前・事後学修時間：

コマにつき、2 時間（正味 90 分を 2 時間と計算）× 15 週 × 2 回 = 60 時間

計 90 時間

したがって、授業を受けるだけでなく、シラバスに明記されている事前学修・事後学修を自分自身で主体的に実施しない限り、大学の単位を修得することはできません。

#### (2) 単位制度における質的側面：標準時間に拘わらず、学修目標まで学修が必要

大学における「単位制」は、高校までの単位制とは異なり、時間と質の両方にかかわる制度です。上で述べた 1 単位の標準学修時間は、あくまでも、標準的な時間にすぎません。

学修目標を達成するためにはさらなる時間が必要となる人も少なくないでしょう。特に学修の仕方や習慣が身に付いていない 1 年生は、正しい学修の方法や習慣が身に付くまで、試行錯誤しながら、大学の学修を身に付ける必要がありますので、より多くの学修時間が必要となります。

また、卒業のために必要な科目やそれぞれの科目群において修得が必要な単位数がありますので、注意が必要です。とくに、各年次に配当されている必修科目は、その配当年次に修得する必要がありますので、単位を落とすことなく最後まで頑張って履修しましょう。

### (3) 卒業必要単位数と1年間に修得すべき単位数

本学部の卒業必要単位数は134単位ですから、4年間で卒業する場合、1年間に34単位以上修得する必要があります。1学期間の履修登録単位数は学生自身が自身の計画や状態に合わせて、22単位～24単位ほど履修登録することを推奨しています。そのうち20単位以上修得すれば、3年間で少なくとも120単位修得し、4年次には1年間で卒業研究とキャリア開発Ⅳを含めて10単位前後を修得すればよいことになります。

4年次に就職内定先に提出する「卒業見込み証明書」は、現時点において（変更の可能性もあります）、3年次末までの単位修得数を100単位以上としていますので、就職のためにも、やはり年平均34単位以上修得する必要があります。

### (4) 大学における単位制の本質：主体性と計画性に基づく、卒業のための能力証明

大学における単位制とは、大学生としての自覚を持ち、卒業のために修得しなければならない科目や単位数に注意しながら将来のことを考えて主体的に単位修得の計画を立て、その計画に沿いながら履修登録をした科目の到達目標以上の実力を培い、科目毎の単位認定試験に合格することによってその実力を証明し、最終的に卒業時において、自身が本学のディプロマ・ポリシーに合った学生であることを証明する制度だと言えるでしょう。

## 2. 1 単位当たりの授業時間

1 単位当たりの授業時間は、授業形態に応じて次のとおり定めています。

講義科目	15 時間
演習科目	30 時間
実習科目	45 時間

※時間割の上では1時限＝90分ですが、事前・事後の自己学修の時間を含めて1時限＝2時間として計算します。

## 3. 修得した単位について

なお、修得した授業科目の単位は、大学の成績原簿に記載され永年管理されます。一度修得した授業科目の単位を取り消すことや重複して修得することはできません。

#### 4. 履修単位の上限設定（キャップ制）について（2020年度以降の1年次入学生・2022年以降の3年次編入学生）

単位の過剰登録を防ぐことによって単位制度の実質化を確保するために、サービス経営学部では各 Semester で履修できる単位数の上限を 25 単位としています。なお、通年科目については、授業科目に与えられた単位数の 2 分の 1 として計算します。

##### 履修単位の上限設定（キャップ制）の除外科目（2020年度以降の1年次入学生・2022年以降の3年次編入学生）

「社会福祉士」国家試験受験資格取得のための次の指定科目については、履修単位の上限設定（キャップ制）から除外します。

相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ      社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ      社会福祉援助技術演習Ⅰ～Ⅳ  
社会福祉援助技術現場実習      社会福祉援助技術現場実習指導

※これらの授業科目の履修は、健康福祉マネジメント学科の社会福祉士サブコースの学生のみ認められます。

#### 5. 卒業の要件

##### (1) 卒業に必要な在籍期間と単位の修得

卒業するためには、4年（8 Semester）以上在学（休学期間を除く）し、所定の単位を修得する必要があります。また、3年次編入学生が卒業するためには、2年（4 Semester）以上在学（休学期間を除く）し、所定の単位を修得する必要があります。

##### (2) 卒業に必要な単位の修得の仕方

卒業するためには、必修科目・選択科目ごとに指定された必要最低修得単位数を修得したうえで、合計 134 単位以上を修得する必要があります。なお、卒業年次においてもキャップ制度の適用があります。キャップ制で定められた履修単位の上限（25 単位）を超えての履修登録はできません。

- ① 必修科目      :    サービス経営学部で学ぶすべての学生が必ず履修し、単位を修得する必要がある科目
- ② 選択科目      :    各学修領域等に配置した複数の科目のうちから決められた単位数を修得する必要がある科目

#### 卒業要件単位数

第3部「授業科目」の「授業科目構成と卒業要件単位」をご確認ください。

#### 6. 必修科目不合格者の履修について

必修科目の単位を修得できなかった学生は、あらためてその科目を履修（再履修）する必要があります。

## IV 履修登録

### 1. 「履修登録」とは

学生各自が、自身の履修する科目を大学へ届け出ることを「履修登録」といいます。各学期の最初に履修登録を行わなければ、授業に出席しても単位を与られません。

### 2. 履修登録の前に

履修登録を行う前に、1年次は4年間の履修計画を考えてください。

2年次以降は過去に修得した単位や卒業後に希望する進路、目標などに応じて1年次に立てた履修計画を再考してください。

自分の目標や目的が定まっておらず履修計画を自分で立てることができないときは、FAの教員や「演習（ゼミナール）」の担当教員（2年次以降の場合）へ相談してください。

特に3年、4年次では、必修科目や選択科目の単位は充足しているか、総単位数が卒業要件単位を満たせるかなどを十分に確認し、慎重かつ確実に履修登録を行ってください。

シラバスに各授業科目の内容や進め方、成績評価の方法・基準などを記載しているので参考にしてください。

### 3. 履修登録の方法

履修登録は、各学期の最初の履修登録期間内にトリプルエーにて必ず行ってください。

授業を初回からスムーズに受講するために、各授業科目の履修希望者数によっては事前の調整を行うことがあります。

トリプルエーによる履修登録の具体的な方法、手順などについては、別途案内します。

### 4. 履修登録にあたっての注意事項

履修登録をする際には次のことに、注意してください。

#### (1) 配当年次

1年生は、1年次に配当されている授業科目のみ履修することができます。

2年次以降は、下位の年次に配当されている授業科目も履修することができます。（たとえば、3年生は3年次に配当されている科目と1年次、2年次に配当されている科目を履修することができます。）

各科目の配当年次は、シラバス及び本『履修要項』の第3部「授業科目」の「サービス経営学部 授業科目及び単位数」で確認してください。

#### (2) 重複履修の禁止

- ① 同一の時限に2つ以上の授業科目を履修することはできません。
- ② 既に単位を修得済みの授業科目を改めて履修することはできません。
- ③ 複数の教員が担当する同一の授業科目を重複して履修することはできません。

### (3) 必修科目の履修

- ① 各年次の必修科目は、その年次に履修登録してください。
- ② 必修科目の単位を修得できなかったときは、翌年度に履修登録をするようにしてください。
- ③ クラス別履修などにより履修時限が指定されている必修科目は、必ず指定された時限に履修しなければなりません。ただし、3年次以降に指定された時限に必修科目を履修することによって他の必修科目の履修に問題が生じるときは、クラス指定を解除して別の時限に履修することを認める場合があります。必要に応じて学生サービス課へ申し出てください。

### (4) 週2コマ科目の履修

週2コマ開講する「初級経済学」「基礎経営学」などの授業科目は、2コマとも履修しなくてはなりません。

### (5) 通年科目の履修

「基礎演習（基礎ゼミ）」「専門演習（専門ゼミ）」「卒業研究」を含む通年科目は、前期・後期を通じて履修しなければなりません。

### (6) 体験・実習科目の履修

「サービス・ラーニング」「総合演習Ⅰ・Ⅱ」などの体験・実習科目は、通常の授業とは異なり、不定期に授業が行われることがあります。詳細は、各授業科目のシラバスを確認してください。

### (7) 履修人数制限

演習や実習系の授業科目をはじめ、一部の授業科目では、教室条件や授業内容によって履修できる学生数を制限することがあります。この場合、抽選により履修者を決定します。

### (8) 履修単位の上限設定（キャップ制）

Semesterごとに履修単位の上限が設定されています（p.22を参照のこと）。

### (9) 授業の開講について

科目により授業を実施しない場合があります。

## 5. 履修登録科目の取り直し

やむを得ない事由により履修登録をした授業科目を取り消したいときは、履修科目取り直しの受付期間内に学生サービス課へ申し出て必要な手続きをしてください。

- ・取り直しが認められる授業科目数は、3科目（半期）までです。
- ・必修科目、履修制限科目、教室定員により調整済の科目は、取り消しできません。
- ・取消手続きは、該当する授業の初回に出席してからとなります。
- ・追加の履修登録はできません。

## 6. 履修登録科目の解除

災害、その他、実習先の都合により、履修解除する場合があります。

## 7. 他学科の専門科目の履修

自分が所属していない学科の専門科目は、卒業時まで合計10単位まで履修することができます。修得した他の学科の専門科目の単位は、自分が所属している学科の専門科目の「選択」科目とみなして卒業要件単位へ算入します。

- ・所属する学科の授業科目を優先して履修登録をしてください。
- ・履修できない授業科目もありますので、履修を計画する際には学生サービス課へ相談・確認してください。
- ・10単位を超えて他学科科目の履修を希望するときは、その旨を学部長へ申請し、承認を得る必要があります。

## 8. 他の大学における単位の修得 —単位互換制度—

本学と協定を結んでいる他の大学が開講し本学学生へ公開している授業科目を履修し、単位認定試験等に合格したときは本学の履修単位として認定します。この制度を単位互換制度といいます。

本学は現在、放送大学、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP：ティージェイアップ）に参加する下記の18大学・短期大学、彩の国大学コンソーシアムへ参加する下記の7大学との間で単位互換協定を結んでいます。

放送大学は、自宅で履修することができます。

埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）及び彩の国大学コンソーシアムに参加する大学等の授業科目については、科目数に関わらず1大学につき2,000円の登録料で受講することができます。

なお、単位互換制度によって履修する科目も、履修単位の上限設定(キャップ制)の中に算入されます。単位互換制度を利用する場合は、予め学生サービス課へ相談してください。

### 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP） 単位互換協定締結大学等

跡見学園女子大学 / 埼玉女子短期大学 / 十文字学園女子大学 / 城西大学 /  
城西短期大学 / 女子栄養大学 / 駿河台大学 / 大東文化大学 / 東京家政大学 /  
東京電機大学 / 東邦音楽大学 / 日本医療科学大学 / 日本工業大学 /  
文京学院大学 / 武蔵丘短期大学 / 明海大学 / 山村学園短期大学 / 立正大学

### 彩の国大学コンソーシアム 単位互換協定締結大学

跡見学園女子大学 / 十文字学園女子大学 / 尚美学園大学 / 駿河台大学 /  
東京家政大学 / 東京電機大学 / 文京学院大学

# V 成績評価

各学期末にそれぞれの授業科目において行う所定の成績評価に合格することによって、その授業科目に与えられている単位が認定されます。

## 1. 成績評価を受けるための前提

成績評価を受けるためには、当該科目について、次の事項を満たしている必要があります。

- |                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① 当該学期の最初に<b>正しく履修登録</b>がされていること。</li><li>② <b>総授業回数の3分の2以上出席</b>していること。</li></ul> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- ※ 「総授業回数の3分の2以上出席」とは、「3分の1まで欠席してよい」ということではありません。
- ※ 「出席」とは、授業の開始時刻から終了時刻まで授業へ参加していたということです。「遅刻」「早退」は、「出席」に含みません。
- ※ 成績評価試験を受験した場合であっても、出席が3分の2に満たない学生の成績評価はF（履修放棄）となります。
- ※ 休学、停学期間中の学生には受験資格がありません。
- ※ 次の事由による学部長が適当と認めた場合の欠席を「公欠」といいます。公欠が認められた場合、その授業は「出席」として扱います。公欠の申請については、学生サービス課へ相談してください。
  - ・本学を代表して対外行事等へ参加
  - ・忌引き
  - ・その他、学部長が適当と認めた場合

## 2. 成績評価方法

成績評価は、筆記試験のほか、口述試験、コンピュータ等の実技試験、提出物（レポートその他の課題）等により行います。また、授業への参画度や受講態度等を加味することもあります。各授業科目の具体的な評価方法は、シラバス等で確認してください。

## 3. 評価基準

履修した授業科目の成績は、次表に記載された「評価基準」により評価されます。

成績表には、「成績表示」の「S」「A」「B」「C」「D」「F」「R」が表示されます。

また、成績証明書には、「評価」の「優」「良」「可」が表示され、「不可」は表示されません。R（単位認定）はそのまま「R」と表示されます。

評価	成績表示	評点	評価基準	合否
優	S	100～90点	各科目で設定された到達目標に対し、要求された程度をはるかに超えた、きわめて優秀な成績である。	合格
	A	89～80点	各科目で設定された到達目標に対し、要求された水準を超えた成績である。	
良	B	79～70点	各科目で設定された到達目標に対し、要求された水準を満たす平均的な成績である。	
可	C	69～60点	各科目で設定された到達目標に対し、要求された水準をかなり満たす成績である。	
不可	D	59～0点	各科目で設定された到達目標に対し、出席の基準を満たしているが、再履修することが望まれる。	不合格
	F		出席の基準を満たしていない、I学期と授業「6. 授業の受講に関する留意事項」(p.16)に該当した場合のいずれかの理由で履修放棄とみなす。	
	R		他大学等において履修した科目の単位を本学で認めたもの。	認定

#### 4. 成績評価試験

成績評価試験は、原則として、学期ごとに設定している定期試験期間に実施します。定期試験期間中の試験時間割、試験室は、別に定めて学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

##### (1) 試験時限

定期試験期間中の時限は、次のとおりです。通常の授業時限と異なりますので、十分に注意してください。

1限	2限	3限	4限	5限	6限
9:30～10:30	10:50～11:50	12:10～13:10	13:50～14:50	15:10～16:10	16:30～17:30

##### (2) 成績評価試験受験に際しての注意事項

- ① 試験での席順は、科目ごとに異なります。指定された席についてください。
- ② 受験の際には、学生証を持参し、試験中は試験監督者が見やすいように机上通路側に写真を表にして置いてください。
- ③ 学生証を忘れた場合、受験を認めません。  
試験開始前に学生サービス課にて仮学生証（有料）の発行を受けてください。
- ④ 試験場へ持ち込みが許されるものは、学生証、筆記用具、時計のほか、科目ごとに指定される持ち込み許可物のみです。
- ⑤ やむを得ない事由により試験開始に遅刻した場合、試験開始後30分までに限り受験を認めます。この場合、試験の終了時間の延長は行いません。
- ⑥ 解答用紙は、試験場を退出する際に必ず提出しなければなりません。
- ⑦ 試験中に不正行為が明らかになった場合、解答用紙を没収します。また以後の他の科目の試験の受験を認めません。（不正行為をした学生は本学の懲戒規定によって処罰の対象となります。p.29参照）

- ⑧ 公共交通機関に大幅な遅れが生じた場合等は、当日別時限または後日、試験を実施することがあります。

## 5. 追試験

「追試験」とは、学生が次の(1)に記載する正当な事由によって定期試験を受験できなかった場合、所定の手続きの後に許可を得て、後日実施する単位認定試験をいいます。

### (1) 追試験受験のための正当な事由

- ① 三親等内の親族が死亡した場合
- ② 病気あるいはケガによる場合
- ③ 災害その他不慮の事故による場合
- ④ その他、学部長がやむを得ない事由と認める場合

なお、正当な事由であることを証明するために、病気やケガの場合は医師の診断書、その他の場合はその事由がわかるものを提出する必要があります。

### (2) 追試験受験の手続き

試験期間の初日から試験期間終了の日の2日後までの間に、追試験料(1科目1,000円)を添えて所定の「追試験願」を学生サービス課へ提出してください。

### (3) 追試験受験の可否

当該科目担当教員が承認した場合、追試験の受験が認められます。

追試験の受験を許可された学生に対して、追試験実施日時等の詳細を学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

### (4) 追試験受験の許可の取り消し等

追試験の受験を許可した後、又は受験後において追試験受験の事由等について不正が明らかとなった場合、追試験受験の許可を取り消し、又は追試験の受験を無効とします。

## 6. 再試験

「再試験」とは、その年度に卒業を予定している学生が、3科目以内の授業科目の単位が修得できなかったために卒業に必要な単位に満たない場合、所定の手続きを経た後に許可を得て、再度実施する単位認定試験をいいます。

なお、9月卒業を予定する学生については、これとは別に対応します。学生サービス課へ問い合わせてください。

### (1) 再試験の対象となる学生

最終学年に在籍しその年度に卒業を予定している学生。

1・2・3年次に在籍する学生は対象となりません。

### (2) 再試験の対象となる授業科目

#### ① 前期の再試験

原則として必修科目で、前期定期試験において成績評価が不合格(D:不可)となったもの。

F評価の授業科目は再試験の対象となりません。

#### ② 後期の再試験

後期に履修登録をした卒業要件に関わる授業科目で、後期定期試験において成績評価が不合格(D:不可)となったもの。F評価の授業科目は再試験の対象となりません。

### (3) 再試験を実施しない授業科目

生涯スポーツ  
情報処理  
統計処理  
サービス・ラーニング  
マーケット・シミュレーション  
ブライダル・プロデュースⅠ・Ⅱ  
チームワーク・ラーニング  
リーダーシップ・ラーニング  
コーチングⅠ・Ⅱ  
フィールドワーク  
海外フィールドワーク  
総合演習Ⅰ・Ⅱ  
社会調査実習  
日本語演習Ⅰ・Ⅱ  
インターンシップⅠ・Ⅱ  
長期インターンシップ  
キャリア開発Ⅰ a, b  
キャリア開発Ⅱ a, b  
キャリア開発Ⅲ a, b  
キャリア開発Ⅳ a, b  
基礎演習  
専門演習  
卒業研究  
基礎ケア学  
生活支援サービス論  
介護技術・援助論  
介護演習  
介護実習  
社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ  
社会福祉援助技術現場実習（新カリ）  
社会福祉援助技術現場実習指導

### (4) 再試験を受験できる科目数

その年度の前期・後期を通じて3科目までです。

### (5) 手続き

本学が指定する手続き期間内に再試験料（1科目1,000円）を添えて所定の「再試験願」を学生サービス課へ提出してください。

手続き期間については学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

### (6) 再試験受験の可否

再試験の受験を許可された学生に対して再試験の実施日時等の詳細を学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

### (7) 再試験科目の成績評価

成績評価の上限は60点（C：可）です。

再試験において不合格となった場合、再度試験を実施することはありません。

## 7. 不正行為

定期試験、追試験、再試験において、試験の実施中・実施後を問わず不正行為が明らかとなった場合、懲戒（学則第53条）が行われるほか、その学期のすべての履修登録が無効となります（学生の懲戒処分に関する規程第12条）。授業の受講時の不正行為に関しては、本要項のⅠ学期と授業「6. 授業の受講に関する留意事項」（p.16～17）を参照してください。

## 8. 成績評点平均点制 (GPA)

本学では、学生自身が学修結果を自己管理する際の総合的な尺度として、成績評点平均点制 (GPA : Grade Point Average) を採用しています。

GPA とは、各科目の成績を 5 段階に分けて数値化し (Grade Point)、それに科目の単位数を加味し、平均値を算出したものです。

GPA は、個々の学生への学修指導に用いられるほか、学科登録や奨学生、各種表彰、ゼミナールの選考、留年・退学勧告の際にも資料として使用されます。

成績表には、学期ごとの GPA と入学時から通算した総合 GPA の 2 つの GPA が記載されます。

成績表示	Grade Point
S	4
A	3
B	2
C	1
D/F	不合格

### (1) GPA の計算方法

$$\frac{S \text{ の修得単位数} \times 4 + A \text{ の修得単位数} \times 3 + B \text{ の修得単位数} \times 2 + C \text{ の修得単位数} \times 1}{\text{総履修単位数}}$$

※ 総履修単位数には不合格 (D・F) の授業科目の単位数を含みます。他大学において修得した科目 (R) の単位を本学で認めた単位数及び履修取り消しをした科目の単位数は含めません。

### (2) GPA に関する履修制限等

総合 GPA が「1.5」に達しないときは、退学を勧告されることがあります。

### (3) GPA 計算例 (2022 年度 1 年次入学生、1 年次前期の場合)

科目名		単 位	成 績	合 否	Grade Point
一般教育科目	ホスピタリティ概論	2	A	合 格	2 単位 × 3 = 6
	対人関係基礎	2	A	合 格	2 単位 × 3 = 6
	ホスピタリティ日本語	2	S	合 格	2 単位 × 4 = 8
	社会学概論	2	A	合 格	2 単位 × 3 = 6
	法学概論 (憲法含む)	2	S	合 格	2 単位 × 4 = 8
	生活科学	2	C	合 格	2 単位 × 1 = 2
	アカデミック・スキルズ	2	S	合 格	2 単位 × 4 = 8
	英語基礎	1	S	合 格	1 単位 × 4 = 4
専門基礎科目	初級経済学	4	D	不合格	4 単位 × 0 = 0
	簿記論	2	B	合 格	2 単位 × 2 = 4
統合領域科目	総合演習 I	2	S	合 格	2 単位 × 4 = 8
	キャリア開発 I a	1	F	不合格	1 単位 × 0 = 0
総履修単位数		24	Grade Point 合計		60

$$1 \text{ 年次前期の GPA} = \frac{\text{前期の Grade Point } 60}{\text{前期の総履修単位数 } 24} = 2.50 \text{ (小数点第 3 位以下四捨五入)}$$

総合 GPA が 2.5 未満の学生は、2.5 以上になるようしっかり勉学に努めてください。

## 9. 成績の通知

成績は、学期末にトリプルエーで通知します。

また、保証人に対して学期毎に成績表を郵送します。

## 10. 成績照会

成績（成績評価と出席率）に疑問があるときは、所定の期間内に学生サービス課にて成績照会の手続きを行ってください。

## 11. 卒業認定

その年度に卒業を予定している学生について、最終試験（9月卒業の学生については前期定期試験）終了後に教授会において、学則に定める卒業の要件を満たしているか否かを判定します。

その結果、卒業を認める学生については、トリプルエーで通知します。

## VI 大学から学生への情報の伝達

### 1. 学内掲示とトリプルエーの活用

大学から学生に対する公式な伝達は、学内掲示及び学修管理システム「Active Academy Advance」(以下「トリプルエー」という)で行います。

休講、教室変更、試験の実施、レポートの提出など授業や試験に関すること、奨学金の手続きをはじめ学生生活に関するもののほか、教員や事務局からの呼び出しなど、原則として学内掲示及びトリプルエーでお知らせします。

学内掲示及びトリプルエーで伝達した事項は、学生全員（休学中の学生を含む）が確認していることとして取り扱います。情報の見落としにより不利益を被ることのないよう、十分に注意してください。詳細はオンラインヘルプを参照してください。

### 2. Web メール : Active! Mail

入学時に各学生へE-Mail アドレスを付与します。このアドレスは、E-Mail ソフト「Active! Mail」で使用できます。

このE-Mail アドレスは、授業科目に関する担当教員からの連絡などにも使用することがあります。パソコン室のPCにログオンの後、デスクトップ上の「Active! Mail」アイコンを実行することにより利用できます。

必要に応じて転送の設定をするなどして有効に活用してください。

詳細は「オンラインヘルプ」を参照してください。

## Ⅵ「演習（ゼミナール）」

### 1. 「演習（ゼミナール）」とは

サービス経営学部では、2年次から4年次まで「演習（ゼミナール）」を履修します。

「演習（ゼミナール）」は、「一般教育科目」、「体験実習科目」、「専門科目」などの履修を通じて発見した問題や課題に基づく研究テーマについてゼミナール担当教員の指導のもとで探究するための授業です。

	2年次	3年次	4年次
サービス経営学科	基礎演習 (基礎ゼミ)	専門演習 (専門ゼミ)	卒業研究
		ホスピタリティ・ツーリズムコース	
		サービス・マネジメントコース	
		グローバル経済コース	
健康福祉 マネジメント学科		健康サービスコース	
	社会福祉コース		

### 2. 「基礎演習（基礎ゼミ）」

2年次の「演習科目（ゼミナール）」の授業科目名は、「基礎演習（基礎ゼミ）」です。

#### (1) 「基礎演習（基礎ゼミ）」の目的

「基礎演習（基礎ゼミ）」は、3年次の「専門演習（専門ゼミ）」へ向け、テーマの選択の前段階としてどのような研究テーマがあるのか、その研究のためにはどのような準備が必要なのかを知るとともに、幅広い学修の中で自らの関心がどこにあるのかを探究します。

#### (2) 「基礎演習（基礎ゼミ）」の選択

「基礎演習（基礎ゼミ）」は、所属学科に関係なく全てのゼミから選択することができます。自分の関心に合った演習、テーマを選択してください。

#### (3) 「基礎演習（基礎ゼミ）」の再履修

- ① 「基礎演習（基礎ゼミ）」の単位を修得できなかった場合、翌年度に再履修しなくてはなりません（3年次の「専門演習（専門ゼミ）」は履修できません）。
- ② 3年次に「基礎演習（基礎ゼミ）」を再履修し単位を修得した場合、4年次では「専門演習（専門ゼミ）」及び「卒業研究」を履修することができます。

### 3. 「専門演習（専門ゼミ）」の選択

3年次の「演習（ゼミナール）」の授業科目名は、「専門演習（専門ゼミ）」です。

#### (1) 「専門演習（専門ゼミ）」の目的

「専門演習（専門ゼミ）」は専門科目で学んだ重要事項や理論枠組みを整理し、自ら問題を発見し、課題を抽出することを目的とします。教員は自らの専門性の観点から指導します。

#### (2) 「専門演習（専門ゼミ）」履修の前提条件

「専門演習（専門ゼミ）」を履修するにあたっては、「基礎演習（基礎ゼミ）」の単位を修得している必要があります。

#### (3) 「専門演習（専門ゼミ）」の選考方法

##### ① 1年次入学生の場合

「専門演習（専門ゼミ）」の所属の選考を2年次の後期に行います。

##### ② 3年次編入学生の場合

入学時前期オリエンテーションの際に配布する「ゼミナール選択の手引き」をもとに、所属を希望するゼミを選択してください。選考を経て所属するゼミを決定します。

### 4. 「卒業研究」について

4年次の「演習（ゼミナール）」の授業科目名は、「卒業研究」です。

#### (1) 「卒業研究」の目的

「専門演習（専門ゼミ）」の学修過程と成果を踏まえて、テーマを具体的に絞り込み、「問題の集約」あるいは「問題への対応・対処」、さらには「新規の提案」として考えをまとめ、最終的に「卒業研究報告書」を執筆・作成し、提出することを目的とします。

#### (2) 「卒業研究」において所属するゼミ

前述のとおり、「卒業研究」は「専門演習（専門ゼミ）」における研究から継続するものです。よって「卒業研究」においては、原則として「専門演習（専門ゼミ）」と同じゼミ（ゼミ担当教員）に所属します。

ただし、「専門演習（専門ゼミ）」における探究の過程で研究テーマを変更する必要性が生じた場合など、学生からの申し出により、「専門演習（専門ゼミ）」から「卒業研究」への移行のタイミングで、所属するゼミ（ゼミ担当教員）の変更を学部長が許可することがあります。

### 5. 卒業研究報告書

#### (1) スケジュール

卒業年度前期指定日： 「卒業研究報告書エントリーシート」を担当教員の署名・捺印を得たうえで、学生本人が学生サービス課へ持参し、提出してください。

1月の指定日： 「卒業研究報告書」を、学生本人が学生サービス課へ持参し、提出してください。

#### (2) 形式

「卒業研究報告書提出要項」に従ってください。

#### (3) 提出

卒業研究の提出にあたっては、「卒業研究報告書提出要領」に従ってください。

**(4) 評価**

提出された卒業研究報告書の成績評価は、その学生が所属するゼミの担当教員により行います。

**(5) 表彰**

優秀な卒業研究報告書については、卒業式の際に表彰します。

**(6) 注意事項**

盗用（コピー・アンド・ペーストを含む一切の<sup>ひようせつ</sup>剽窃行為）や盗作（学生本人以外が作成したものを自分が作成したものとして提出すること）が明らかとなったときは提出を無効とし、評価の対象とはしません。

これらの行為は、懲戒（訓告、退学または停学）の対象となります（学則第 53 条、学生の懲戒処分に関する規程第 5 条）。

## VIII 履修計画

### 1. 4年間のカリキュラムと履修計画

サービス経営学部のカリキュラムは、①「問題発見・解決能力」、「シミュレーション能力」、「ホスピタリティを基礎としたコミュニケーション能力」などの知的な訓練と、②「意欲」、「チームワーク」などの豊富な経験を通じた学びの2つを統合することによって、総合的な学修経験と創造的思考力を培うことをめざしています。

各自の目的、目標、関心などに応じながら、一定のルールのもとに履修する必要があります。卒業に必要な単位数 134 単位以上を修得できるよう、4年間の履修計画を立ててください。

### 2. 体系的に学修を進めるための授業科目の配置

本学部のカリキュラムは、学生が最大の学修効果を得られるように、授業科目の配当年次、必修科目・選択科目の指定などを行っています。

さらに5つの専門コースと学びの統合を目的とする「演習（ゼミナール）」における専門的な学びを通じて「豊かな人間性を持つ、実践的で柔軟な職業人」を育成します。

#### (1) 授業科目の関連

サービス経営学部で開講する授業科目はそれぞれが関連しあっています。各授業科目の「授業概要（シラバス）」には、「履修上の留意点」の欄にその科目を履修する以前に修得しておかなければならない授業科目名を記載しているものがあります。これは、体系的に学修を進めるために、発展・応用的な内容の授業科目を履修する前に、その分野の基礎的な内容を教授する授業科目を履修しておく必要がある、ということを示しています。

また、どのような順序で授業科目を履修することが学びに最も効果的であるかを考慮して、各授業科目の配当年次を設定しています。

#### (2) 授業科目の配置

##### ① 必修科目

ホスピタリティ教育の基盤をなす「ホスピタリティとコミュニケーション理解科目」、サービス経営学に関する「専門基礎科目」などを、主に1年次に「必修科目」として配置しています。

##### ② 選択科目

授業科目を全体的に、各分野、領域、コース等ごとに「選択科目」としてグループ化し、そのグループの科目のうちから一定の単位以上履修することとしています。

#### (3) めざす資格の取得に応じたカリキュラム

学生がめざす資格を取得するために、資格ごとに、どの授業科目を履修する必要があるかを明確にしています。

### 3. 各コースの履修について

#### (1) サービス経営学科

##### ● ホスピタリティ・ツーリズムコース

サブコース総論科目の「観光サービス論」「ホテル・フードサービス論」「ブライダルサービス論」「メディアサービス論」のもとに専門性の高い各論を配置しています。サブコース総論科目から2つ以上の科目を選択することで複眼的かつ体系的な学修ができます。さらに、体験・実習科目の「サービス・ラーニング」「インターンシップ」「海外フィールドワーク」と資格取得の科目である「実務論」を組み合わせることで、総合的な学修経験を得て、ホスピタリティ産業に従事するための基礎力を身につけます。

##### ● サービス・マネジメントコース

サービス・マネジメントコースは、イノベーションやマーケティングに関連する学修を通じて、サービス産業における経営面での専門的知識を修得することを目的としています。特に、サービス産業で必要とされる経営面の理論や知識とコミュニケーションスキルを身に付け、さらにはこれらをケースメソッド教授法及び体験学修等を通じて問題解決に応用できるようになることをめざします。

サブコース総論科目の「イノベーション・マネジメント論」「サービス・マーケティング論」のもとに専門性の高い各論を配置しています。サブコース総論科目2科目を履修することで複眼的かつ体系的な学修ができます。さらに体験・実習科目の「サービス・ラーニング」「インターンシップ」「海外フィールドワーク」を組み合わせることで、総合的な学修経験を得て、サービス・マネジメントを実践的に理解し、問題解決力を身に付けます。

##### ● グローバル経済コース

グローバル経済コースは、世界及び都市・地域の経済に関連する学修を通じて、日本のみならず世界の変動を見通してグローバルに活躍する人材の育成を目的としています。サービス業、ホスピタリティ産業がグローバル化する中で、海外に展開する企業や都市・地域づくりの現場で必要とされる知識、コミュニケーションスキル、経済の分析手法などを身に付け、体験学修等を通じて問題解決に応用できるようになることをめざします。

サブコース総論科目の「グローバル経済総論」「地域経済総論」のもとに専門性の高い各論を配置しています。サブコース総論科目2科目を履修することを条件づけていますが、経験・体験から経済の動きを肌で感じ、理解を深める「マーケット・シミュレーション」や企業の現場を探訪する「海外フィールドワーク」なども併せて履修して経験値を高めることにより、経済をグローバルに解明する力を養い、魅力ある都市・地域をつくる力を育みます。

## (2) 健康福祉マネジメント学科

### ● 健康サービスコース

健康サービスコースでは、「健康」に関する知識を身体面・精神面・社会面から体系的に修得したうえで、健康に関する課題を発見し、その解決策を考察します。コースの目標は、現代社会や地域コミュニティにおける健康づくり全般に関する課題の解決に貢献できる人材の育成です。その教育方法には、地域コミュニティへ積極的に参加する演習・実習科目や、学生同士のコミュニケーションを図りながらチームで問題解決をめざす協調型学習などを積極的に取り入れています。

このコースは、「健康・スポーツ」と「心理・セラピー」の2つのサブコースで構成しています。「健康・スポーツ」サブコースは、「スポーツの理論と実践」、「チームづくり」を学ぶことにより、健康サービス産業で必要とされるマネジメントスキルやコーチングスキルを身に付けます。日本スポーツ協会の公認資格である「スポーツ指導基礎資格」「競技別指導者資格」「ジュニアスポーツ指導者」などの取得を推奨します。

「心理・セラピー」サブコースでは、人の「こころ」を人間性（ヒューマニティ）と科学（サイエンス）の両視点から学び、豊かな社会生活を送るために必要な「カウンセリングマインド」とデータによる問題解決を図るための「リサーチマインド」を修得します。さらには、いくつかの臨床的なセラピーを学ぶことにより実践的な学びが可能となります。取得可能な資格として、日本教育カウンセラー協会認定の「ピアヘルパー」、社会調査協会認定の「社会調査士」などがあります。

### ● 社会福祉コース

社会福祉コースは、社会福祉に関する体系的な学修と多様な経験を通じて、生活の中で様々な困難を抱える人に対して、その困難が生じている社会的背景を理解し、一人ひとりのあたりまえの暮らしを支える人材の養成を目的としています。また、大学近隣地域での実習や様々なフィールドワークを積極的に行うことで、地域を身近に感じ、社会福祉を多角的な視点から実践的に理解する力を身につけることをねらいとしています。

このコースは「社会福祉士」と「生活支援」の2つのサブコースで構成しています。

「社会福祉士」サブコースでは、指定科目の履修によって、ソーシャルワーカーの国家資格である社会福祉士の受験資格を取得できます。

「生活支援」サブコースでは、全国手話検定などの資格取得を目指しながら、日々の生活において支援を必要としている人たちを支えるための知識と技術を身に付けます。

#### 4 資格取得指定科目

サービス経営学部では、所定の科目を履修し単位を修得することにより、次の資格を得ることができます。

資格を取得するために単位修得が必要な科目は、それぞれ配当年次が決まっているだけでなく、履修年次を限定している授業科目もあります。入学時から目標を設定し、計画的に履修することが大切です。

- **社会福祉士国家試験受験資格** (健康福祉マネジメント学科 社会福祉コース 社会福祉士サブコース 指定科目修了学生のみ)
- **社会調査士資格**                      ● **社会福祉主事任用資格**
- **児童指導員任用資格** (健康福祉マネジメント学科 社会福祉コースの修了生のみ)

##### (1) 「社会福祉士国家試験受験資格」

健康福祉マネジメント学科の社会福祉士サブコースを選択し、「厚生労働大臣指定科目」(次表右側)に対応する本学における開講科目 31 科目(次表左側)すべてを履修し単位を修得した場合、「社会福祉士国家試験」受験資格を得ることができます。

##### 「社会福祉士国家試験受験資格」 厚生労働大臣指定科目と本学開講科目の対応表

	本学開講科目	配当年次	厚生労働大臣指定科目
1	人体の構造と機能および疾病	2 前	医学概論
2	心理学概論	1 後	心理学と心理的支援
3	社会学概論	1 前	社会学と社会システム
4	社会福祉原論Ⅰ	2 前	社会福祉の原理と政策
5	社会福祉原論Ⅱ	2 後	
6	社会調査法	1 後	社会福祉調査の基礎
7	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	2 前	ソーシャルワークの基盤と専門職
8	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2 後	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)
9	社会福祉援助技術論Ⅰ	2 前	ソーシャルワークの理論と方法
10	社会福祉援助技術論Ⅱ	2 後	
11	社会福祉援助技術論Ⅲ	3 前	ソーシャルワークの理論と方法(専門)
12	社会福祉援助技術論Ⅳ	3 後	
13	地域福祉論Ⅰ	2 前	地域福祉と包括的支援体制
14	地域福祉論Ⅱ	2 後	
15	福祉サービスの組織と経営	3 後	福祉サービスの組織と経営
16	社会保障論Ⅰ	3 前	社会保障
17	社会保障論Ⅱ	3 後	
18	老人福祉論Ⅱ	2 前	高齢者福祉
19	障害者福祉論	2 前	障害者福祉
20	児童福祉論	2 前	児童・家庭福祉
21	公的扶助論	3 前	貧困に対する支援
22	保健医療サービス	3 後	保健医療と福祉
23	権利擁護と成年後見制度	3 前	権利擁護を支える法制度
24	更生保護制度	3 前	刑事司法と福祉
25	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2 前	ソーシャルワーク演習
26	社会福祉援助技術演習Ⅱ	2 後	ソーシャルワーク演習(専門)
27	社会福祉援助技術演習Ⅲ	3 前	
28	社会福祉援助技術演習Ⅳ	3 後	
29	社会福祉援助技術現場実習指導	2～4 前後(履修)	ソーシャルワーク実習指導
30	社会福祉援助技術現場実習	2～4 前後(履修)	ソーシャルワーク実習

## (2) 「社会調査士」資格

「社会調査士」とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」です。

本学の開講科目から次の表の1、2、3、5、7の指定5科目と4、6の2科目のいずれか1科目、合計6科目の単位を修得し、学生自身が社会調査協会へ申請することにより、同協会の審査を経て資格認定証が交付されます。

### 「社会調査士資格」指定科目

	科目名	推奨する履修年次	カリキュラム上の配当年次
1	社会調査法 (指定)	1後	1後
2	統計処理 (指定)	2前	2前
3	マーケティング・リサーチ (指定)	2後	2後
4	フィールドワーク (4, 6 どちらか1科目選択)	2前・後(通年)	2前・後(通年)
5	応用統計学 (指定)	3前	3前
6	統計・定量分析手法 (4, 6 どちらか1科目選択)	3後	2後
7	社会調査実習 (指定)	3後	2後

## (3) 「社会福祉主事任用資格」

「社会福祉主事任用資格」は、地方自治体の福祉事務所や児童相談所で働く公務員（ケースワーカー）に任用されるために必要な資格で、業務に就くことによってはじめて名乗ることができる資格（任用資格）です。また、その他の福祉施設の管理者に登用されるにあたっても資格条件として準用されることがあります。

本学では、「社会福祉法第19条1号の規定により厚生労働大臣が指定する科目」に対応する次の科目から3科目の単位を修得かつ本学を卒業することが必要です。

「社会福祉主事任用資格」、「厚生労働大臣が指定する科目」に対応する本学開講科目

	科目名	配当年次
1	社会福祉原論Ⅰ	2前
2	社会福祉原論Ⅱ	2後
3	社会福祉援助技術論Ⅰ	2前
4	社会福祉援助技術論Ⅱ	2後
5	社会福祉援助技術論Ⅲ	3前
6	社会福祉援助技術論Ⅳ	3後
7	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	2前
8	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2後
9	社会調査法	1後
10	福祉サービスの組織と経営	3後
11	福祉行財政と福祉計画	3前
12	社会保障論Ⅰ	3前
13	社会保障論Ⅱ	3後
14	公的扶助論	3前
15	児童福祉論	2前
16	障害者福祉論	2前
17	老人福祉論Ⅰ	2前
18	老人福祉論Ⅱ	2後
19	地域福祉論Ⅰ	2前
20	地域福祉論Ⅱ	2後
21	民法Ⅰ	3前
22	民法Ⅱ	3後
23	経済政策	2後
24	心理学概論	1後
25	社会学概論	1前
26	人体の構造と機能及び疾病	2前

※ 括弧でくくった科目については2科目の単位を修得することによって、厚生労働大臣が指定する科目1科目として計算します。

(4) 「児童指導員任用資格」

児童指導員とは、放課後等デイサービスや児童発達支援センター、重症心身障害児を対象とした児童発達支援事業に配置しなければならないと厚生労働省に定められた職業です。仕事内容としては、知的障害や身体障害を持った児童への療育や、さまざまな事情によって家族による養育が困難になった子どもたちへのケースワークなどが挙げられます。

本学部の健康福祉マネジメント学科社会福祉コースを卒業すると同時に得ることができる、任用資格です。





第3部  
授業科目



## 授業科目構成と卒業要件単位

S221

区 分			必 修	選 択		計	
一般教育科目	全学共通科目	大学基盤科目 (ホスピタリティとコミュニケーション理解科目)	6	2	10		
		人間理解領域科目 (含, 体育・健康理解科目)		12			
		社会・自然・環境理解領域科目					
		情報科学理解領域科目	0	4			
		外国語科目	6	2			
	サ経 学部科目	アカデミック・スキルズ	2	-			
専門科目	学部共通科目	専門基礎科目	14	4			
		留学生科目					
		総合領域科目	キャリア 体験・実習科目		2		
			教育科目 キャリア科目	8			
	演習科目	12					
全学共通科目・学部共通科目 計			48	26	10	84	

区 分			必 修	選 択		計
サービス経営学科 専門科目	専門基幹科目			8	22	
	ホスピタリティ・ツーリズムコース			20 <sup>(注)</sup>		
	サービス・マネジメントコース					
	グローバル経済コース					
サービス経営学科専門科目 計 (2)				28	22	50

(注) 20単位は同一コース内とし、うち2科目は※のつく科目であること。

区 分			必 修	選 択		計
健康福祉マネジメント学科 専門科目	専門基幹科目			8	22	
	健康サービスコース			20 <sup>(注)</sup>		
	社会福祉コース					
健康福祉マネジメント学科専門科目 計 (3)				28	22	50

(注) 20単位は同一コース内であること。

### 卒業要件単位数

学 科		必 修	選 択		計
サービス経営学科	(1) + (2)	48	54	32	134
健康福祉マネジメント学科	(1) + (3)	48	54	32	134

区分	授業科目の名称	配当年次			単 位		備 考
		年次	前	後	必修	選択	
一般教育科目	(ホスピタリティとコミュニケーション) 大学基盤科目	ホスピタリティ概論	1	○		2	2 単位以上
		対人関係基礎	1	○		2	
		対人関係応用	1		○	2	
		ホスピタリティ日本語	1	○		2	
		ホスピタリティ・スキルズ	1		○	2	
		プレゼンテーション・スキルズ	1		○	2	
		ロジカルシンキング	1		○	2	
	人間理解領域	生活科学	1	○		2	12 単位以上
		日常生活と健康	1	○		2	
		音楽と人間	1	○		2	
		生涯スポーツ	1	○	○	2	
		心理学概論	1		○	2	
		哲学と人生	1		○	2	
		教育学概論	1		○	2	
		頭脳と学習	1		○	2	
	社会・自然・環境理解領域	社会学概論	1	○		2	10 単位以上
		社会と歴史	1	○		2	
		NPO・ボランティア論入門	1	○		2	
		コミュニティ論	1	○		2	
		地球環境科学概論	1	○		2	
		法学概論 (憲法含む)	1	○	○	2	
		現代社会と保健医療福祉	1		○	2	
		災害と地域づくり	1		○	2	
	情報科学理解領域	ICT リテラシー	1	○		2	4 単位以上
		データサイエンス・AI 活用入門情報処理	1	○		2	
		統計処理	1	○	○	2	
		情報処理	1		○	2	
		数理処理	1		○	2	
		社会調査法	1		○	2	
		科学技術論	1		○	2	
		統計・定量分析手法	1		○	2	
	外国語	英語基礎	1	○		1	2 単位以上
		初級英会話	1		○	1	
		英語 I	2	○		2	
		英語 II	2		○	2	
		ホスピタリティ英会話 I [サービス]	1	○		1	
ホスピタリティ英会話 II [医療・福祉]		1		○	1		
ホスピタリティ英会話 III [ビジネス]		2	○		1		
ホスピタリティ英会話 IV [プレゼンテーション]		2		○	1		
フランス語 I		1	○		2		
フランス語 II		1		○	2		
中国語 I		1	○		2		
中国語 II		1		○	2		
サ 経 部 科 目	主体性と判断力の育成	アカデミック・スキルズ	1	○		2	

区 分		授業科目の名称	配当年次			単 位		備 考	
			年次	前	後	必修	選択		
サービス経営学部共通科目	専門基礎科目	初級経済学	1	○		4		4 単位以上	
		簿記論	1	○		2			
		産業論	1		○	2			
		基礎経営学	1		○	4			
		サービス・マネジメント論	1		○	2			
		マーケティング	1		○		2		
		会計学概論	1		○		2		
		中級経済学	1		○		2		
	留学生科目	日本語Ⅰ	1	○			2	2 単位以上	
		日本語Ⅱ	1		○		2		
		日本事情	2	○			2		
	キャリア教育科目	体験・実習科目	サービス・ラーニング	1	○	○			2
			マーケット・シミュレーション	1	○	○			2
			ブライダル・プロデュースⅠ	1	○				2
			ブライダル・プロデュースⅡ	1		○			2
			チームワーク・ラーニング	2	○	○			2
			リーダーシップ・ラーニング	3	○	○			2
			コーチングⅠ	3	○				2
			コーチングⅡ	3		○			2
			フィールドワーク	1	○	○			2
			海外フィールドワーク	1	○				2
		総合演習Ⅰ	1	○	○		2		
		社会調査実習	2		○		2		
		総合演習Ⅱ	4	○	○		2		
		日本語演習Ⅰ	2	○	○		2		
		日本語演習Ⅱ	3	○	○		2		
		インターンシップⅠ	1		○		2		
		インターンシップⅡ	2	○			2		
		長期インターンシップ	2	○	○		2		
		キャリア科目	キャリア論	2		○			2
			キャリア開発Ⅰ a	1	○		1		
	キャリア開発Ⅰ b		1		○	1			
	キャリア開発Ⅱ a		2	○		1			
	キャリア開発Ⅱ b		2		○	1			
	キャリア開発Ⅲ a		3	○		1			
	キャリア開発Ⅲ b		3		○	1			
キャリア開発Ⅳ a	4		○		1				
キャリア開発Ⅳ b	4		○	1					
演習科目	基礎演習(ホスピタリティ・ツーリズム)	2		○		4	4 単位		
	基礎演習(サービス・マネジメント)	2		○		4			
	基礎演習(グローバル経済)	2		○		4			
	基礎演習(社会福祉)	2		○		4			
	基礎演習(健康サービス)	2		○		4	4 単位		
	専門演習(ホスピタリティ・ツーリズム)	3		○		4			
	専門演習(サービス・マネジメント)	3		○		4			
	専門演習(グローバル経済)	3		○		4			
	専門演習(社会福祉)	3		○		4	4 単位		
	専門演習(健康サービス)	3		○		4			
	卒業研究(ホスピタリティ・ツーリズム)	4		○		4			
	卒業研究(サービス・マネジメント)	4		○		4			
	卒業研究(グローバル経済)	4		○		4			
	卒業研究(社会福祉)	4		○		4			
卒業研究(健康サービス)	4		○		4				

区分	授業科目の名称	配当年次		単 位		備 考
		年次	前 後	必修	選択	
専門基幹科目	財務会計論	2	○		2	8単位
	経済統計	2	○		2	
	国際関係	2	○		2	
	日本経済論	2	○		2	
	経済数学	2	○		2	
	管理会計論	2		○	2	
	計量経済学	2		○	2	
	経済政策	2		○	2	
	財務分析	3	○		2	
	国際会計論	3	○		2	
	民法Ⅰ	3	○		2	
	応用統計学	3	○		2	
	ホスピタリティ教育論	3	○		2	
	ビジネス・シミュレーション	3		○	2	
	民法Ⅱ	3		○	2	
ホスピタリティ・ ツーリズムコース	観光サービス論 ※	2	○		2	同一コース内で20単位(内2科目は※のつく科目であること)
	ニューツーリズム論	2		○	2	
	観光実務論	2		○	2	
	エアライン実務論	2		○	2	
	MICE ビジネス論	3	○		2	
	観光資源論	3	○		2	
	エアライン・サービス論	3	○		2	
	観光まちづくり論	3		○	2	
	クレーム・マネジメント	3		○	2	
	エアライン・ビジネス論	3		○	2	
	ホテル・フードサービス論 ※	2	○		2	
	ホテル・旅館経営論	2		○	2	
	ホテル・フード実務論	2		○	2	
	コンシェルジュ論	3	○		2	
	フードビジネス論	3		○	2	
	ホスピタリティ会計論	3		○	2	
	プライダルサービス論 ※	2	○		2	
	プライダル実務論	2		○	2	
	プライダル文化論	3	○		2	
	メディアサービス論 ※	2	○		2	
	マスコミ論	2		○	2	
	メディア実務論	2		○	2	
レジャー産業論	3	○		2		
情報産業論	3		○	2		
広告論	3		○	2		
サービス・ マネジメントコース	イノベーション・マネジメント論 ※	2	○		2	22単位以上
	サービス創造論	2		○	2	
	イノベーション・プロセス論	2		○	2	
	経営組織論	3	○		2	
	経営戦略論	3	○		2	
	アントレプレナーシップ	3		○	2	
	組織行動論	3		○	2	
	サービス・マーケティング論 ※	2	○		2	
	マーケティング・リサーチ	2		○	2	
	流通システム論	2		○	2	
	消費者行動論	3	○		2	
	リテールビジネス論	3	○		2	
	オペレーションズ・マネジメント論	3		○	2	
	マーチャндаイジング論	3		○	2	
グローバル経済コース	グローバル経済総論 ※	2	○		2	22単位以上
	金融論	2		○	2	
	経済体制論	2		○	2	
	国際貿易論	3	○		2	
	国際金融論	3	○		2	
	地域研究Ⅰ	3	○		2	
	開発経済学	3		○	2	
	国際経営論	3		○	2	
	地域研究Ⅱ	3		○	2	
	地域経済総論 ※	2	○		2	
	財政論	2		○	2	
	産業立地論	2		○	2	
	ネットワーク産業論	3	○		2	
	中小企業論	3	○		2	
	都市経済論	3	○		2	
	公益事業論	3		○	2	
地方行財政論	3		○	2		
不動産論	3		○	2		

区 分	授業科目の名称	配当年次			単位		備 考
		年次	前	後	必修	選択	
健康福祉マネジメント学科専門科目	健康・福祉サービス概論	2	○			2	8単位
	基礎ケア学	2	○			2	
	生活支援サービス論	2	○			2	
	人体の構造と機能及び疾病	2	○			2	
	基礎医学・リハビリテーション	2		○		2	
	介護技術・援助論	2		○		2	
	介護演習	2		○		2	
	介護実習	2		○		2	
	チェーンレクチャー 健康・福祉	2		○		2	
	ヒューマンサービスマネジメント論	3	○			2	
	ソーシャル・マーケティング	3	○			2	
	ホスピタリティ教育論	3	○			2	
	福祉・医療と倫理	3		○		2	
	非営利組織会計	3		○		2	
	フィットネス論	2	○			2	
	スポーツ心理学	2		○		2	
	コーチング論	2		○		2	
	メンタルトレーニング論	2		○		2	
	スポーツマネジメント論Ⅰ	3	○			2	
	健康管理論	3	○			2	
	ヘルスケアビジネス論	3	○			2	
	スポーツマネジメント論Ⅱ	3		○		2	
	健康科学論	3		○		2	
	カウンセリング心理学	2	○			2	
	ピアヘルピング	2	○			2	
	ピアヘルピング演習	2		○		2	
	社会心理学	3	○			2	
	セラピー論	2		○		2	
	コミュニティ心理学	3		○		2	
	ダンスセラピー	3	○			2	
	アニマルセラピー	3	○			2	
	表現セラピー	3		○		2	
	バイオセラピー	3		○		2	
	社会福祉原論Ⅰ	2	○			2	22単位以上
	社会福祉原論Ⅱ	2		○		2	
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	2	○			2	
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2		○		2		
社会福祉援助技術論Ⅰ	2	○			2		
社会福祉援助技術論Ⅱ	2		○		2		
老人福祉論Ⅰ	2	○			2		
老人福祉論Ⅱ	2		○		2		
地域福祉論Ⅰ	2	○			2		
地域福祉論Ⅱ	2		○		2		
障害者福祉論	2	○			2		
児童福祉論	2	○			2		
社会保障論Ⅰ	3	○			2		
社会保障論Ⅱ	3		○		2		
公的扶助論	3	○			2		
福祉行財政と福祉計画	3	○			2		
福祉サービスの組織と経営	3		○		2		
保健医療サービス	3		○		2		
就労支援サービス	3	○			1		
権利擁護と成年後見制度	3	○			2		
更生保護制度	3	○			2		
社会福祉援助技術論Ⅲ	3	○			2		
社会福祉援助技術論Ⅳ	3		○		2		
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	○			2		
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2		○		4		
社会福祉援助技術演習Ⅲ	3	○			2		
社会福祉援助技術演習Ⅳ	3		○		2		
社会福祉援助技術現場実習	2～4	○	○		6		
社会福祉援助技術現場実習指導	2～4	○	○		2		

注) 下線付きの科目は、社会福祉コース（社会福祉士サブコース）の学生のみ履修可。



授業科目構成と卒業要件単位

S223

区 分		必 修	選 択	計	
全学共通科目	総合教育科目	社会理解領域科目			
		人間理解領域科目			
		環境理解領域科目			
		体育・健康理解科目			
		ホスピタリティとコミュニケーション理解科目	2		
		アカデミック・スキル科目			
サービス経営学部 共通科目	専門基礎科目		8		
	留学生科目				
	統合領域科目	キャリア教育科目	体験・実習科目		
			キャリア科目	4	
	演習科目		8		
全学共通科目・学部共通科目 計 (1)		22		22	

区 分		必 修	選 択	計
サービス経営学科 専門科目	専門基幹科目		8	
	ホスピタリティ・ツーリズムコース		(注) 20	22
	サービス・マネジメントコース			
	グローバル経済コース			
サービス経営学科専門科目 合計 (2)			28	22

(注)20単位は同一コース内とし、うち2科目は※のつく科目であること。

認定単位 (入学時一括認定) (3)	62
--------------------	----

卒業要件単位数

学 科	必 修	選 択	計
サービス経営学科 (1) + (2) + (3)	22	28	22
			134

区分	授業科目の名称	配当年次		単 位		備 考	
		年次	前 後	必修	選択		
全学共通科目 総合教育科目	社会理解領域科目	社会学概論	1	○		2	
		経済史	1	○		2	
		法学概論Ⅰ（憲法含む）	1	○		2	
		法学概論Ⅱ（憲法含む）	1		○	2	
		現代社会と健康・福祉	1		○	2	
		社会調査法	1		○	2	
		現代社会論	2	○		2	
		NPO 論	2		○	2	
		社会理解特論	3	○		2	
	人間理解領域科目	日常生活と健康	1	○		2	
		地理学	1	○		2	
		病気の予防	1		○	2	
		心理学概論	1		○	2	
		スポーツと健康	1		○	2	
		音楽と社会	2	○		2	
		哲学と人生	2		○	2	
	環境理解領域科目	地球と環境	1	○		2	
		景観論	1		○	2	
		食生活論	1		○	2	
		都市生活環境論	2	○		2	
		食糧資源論	2	○		2	
		循環型社会論	2		○	2	
	体育・健康理解科目	科学技術発達史	2		○	2	
		生涯スポーツⅠ	1	○		2	
		生涯スポーツⅡ	1		○	2	
	ホスピタリティとコミュニケーション理解科目	ホスピタリティ概論	1	○		2	
		対人関係基礎演習	1	○		2	
		対人関係応用演習	1		○	2	
		英語Ⅰ	1	○		1	
		初級英会話	1		○	1	
		英語Ⅱ	2	○		2	
		英語Ⅲ	2		○	2	
		サービス接遇Ⅰ	2	○		2	
		サービス接遇Ⅱ	2		○	2	
		総合英語	1	○		2	
		Service English Communication	1	○		2	
		フランス語Ⅰ	2	○		2	
		フランス語Ⅱ	2		○	2	
		中国語Ⅰ	2	○		2	
		中国語Ⅱ	2		○	2	
		ビジネス日本語	2	○		2	
		中級英会話	3	○		1	
		上級英会話	3		○	1	
		英語コミュニケーションⅠ	3	○		1	
		英語コミュニケーションⅡ	3		○	1	
アカデミック・スキル科目	アカデミック・スキル	1	○		2		
	数値処理Ⅰ	1		○	2		
	数値処理Ⅱ	2	○		2		
	情報処理Ⅰ	1		○	2		
	情報処理Ⅱ	2	○		2		
	プレゼンテーション・スキルⅠ	1		○	2		
	プレゼンテーション・スキルⅡ	2	○		2		
	統計・定量分析手法	2		○	2		
	ロジカルシンキング	2		○	2		

区分	授業科目の名称		配当年次			単位		備考		
			年次	前	後	必修	選択			
サービス経営学部共通科目	専門基礎科目	初級経済学	1	○			4	4単位(選択必修) 4単位(選択必修)		
		簿記論	1	○			2			
		産業論	1		○	2				
		基礎経営学	1		○	4				
		サービス・マネジメント論	1		○	2				
		マーケティング	1		○		2			
		会計学概論	1		○		2			
		中級経済学	1		○		2			
	留学生科目	日本語Ⅰ	1	○			2			
		日本語Ⅱ	1		○		2			
		日本事情	2	○			2			
	総合領域科目	キャリア教育科目	サービス・ラーニング	1	○	○			2	
			マーケット・シミュレーション	1	○	○			2	
			プライダル・プロデュースⅠ	1	○				2	
			プライダル・プロデュースⅡ	1		○			2	
			チームワーク・ラーニング	2	○	○			2	
			リーダーシップ・ラーニング	3	○	○			2	
			コーチングⅠ	3	○				2	
			コーチングⅡ	3		○			2	
			フィールドワーク	1	○	○			2	
			海外フィールドワーク	1	○				2	
			総合演習Ⅰ	1	○	○			2	
			社会調査実習	2		○			2	
			総合演習Ⅱ	4	○	○			2	
日本語演習Ⅰ			2	○	○		2			
日本語演習Ⅱ			3	○	○		2			
インターンシップⅠ			1		○		2			
インターンシップⅡ			3	○			2			
長期インターンシップ			2	○	○		2			
キャリア科目		キャリア論	2		○		2			
		キャリア開発Ⅰ a	1	○		—				
		キャリア開発Ⅰ b	1		○	—				
		キャリア開発Ⅱ a	2	○		—				
		キャリア開発Ⅱ b	2		○	—				
		キャリア開発Ⅲ a	3	○		1				
		キャリア開発Ⅲ b	3		○	1				
		キャリア開発Ⅳ a	4	○		1				
キャリア開発Ⅳ b		4		○	1					
演習科目	基礎演習(ホスピタリティ・ツーリズム)	2	○		—					
	基礎演習(サービス・マネジメント)	2	○		—					
	基礎演習(グローバル経済)	2	○		—					
	基礎演習(社会福祉)	2	○		—					
	基礎演習(健康サービス)	2	○		—					
	基礎演習(アーツ&サイエンス)	2	○		—					
	専門演習(ホスピタリティ・ツーリズム)	3	○			4				
	専門演習(サービス・マネジメント)	3	○			4				
	専門演習(グローバル経済)	3	○			4				
	専門演習(社会福祉)	3	○			4				
	専門演習(健康サービス)	3	○			4				
	専門演習(アーツ&サイエンス)	3	○			4				
	卒業研究(ホスピタリティ・ツーリズム)	4	○			4				
	卒業研究(サービス・マネジメント)	4	○			4				
	卒業研究(グローバル経済)	4	○			4				
	卒業研究(社会福祉)	4	○			4				
卒業研究(健康サービス)	4	○			4					

区 分	授業科目の名称	配当年次		単 位		備 考
		年次	前 後	必修	選択	
専門基幹科目	財務会計論	2	○		2	8単位(選択必修)
	経済統計	2	○		2	
	国際関係	2	○		2	
	日本経済論	2	○		2	
	経済数学	2	○		2	
	管理会計論	2		○	2	
	計量経済学	2		○	2	
	経済政策	2		○	2	
	財務分析	3	○		2	
	国際会計論	3	○		2	
	民法Ⅰ	3	○		2	
	応用統計学	3	○		2	
	ホスピタリティ教育論	3	○		2	
	ビジネス・シミュレーション	3		○	2	
	民法Ⅱ	3		○	2	
ホスピタリティ・ ツーリズムコース	観光サービス論 ※	2	○		2	同一コース内で20単位(選択必修)内2科目は※のつく科目であること
	ニューツーリズム論	2		○	2	
	観光実務論	2		○	2	
	エアライン実務論	2		○	2	
	MICE ビジネス論	3	○		2	
	観光資源論	3	○		2	
	エアライン・サービス論	3	○		2	
	観光まちづくり論	3		○	2	
	クレーム・マネジメント	3		○	2	
	エアライン・ビジネス論	3		○	2	
	ホテル・フードサービス論 ※	2	○		2	
	ホテル・旅館経営論	2		○	2	
	ホテル・フード実務論	2		○	2	
	コンシェルジュ論	3	○		2	
	フードビジネス論	3		○	2	
	ホスピタリティ会計論	3		○	2	
	ブライダルサービス論 ※	2	○		2	
	ブライダル実務論	2		○	2	
	ブライダル文化論	3	○		2	
	メディアサービス論 ※	2	○		2	
サービス経営学科専門科目	マスコミ論	2		○	2	22単位以上(選択)
	メディア実務論	2		○	2	
	レジャー産業論	3	○		2	
	情報産業論	3		○	2	
	広告論	3		○	2	
	イノベーション・マネジメント論 ※	2	○		2	
	サービス創造論	2		○	2	
	イノベーション・プロセス論	2		○	2	
	経営組織論	3	○		2	
	経営戦略論	3	○		2	
	アントレプレナーシップ	3		○	2	
	組織行動論	3		○	2	
	サービス・マーケティング論 ※	2	○		2	
	マーケティング・リサーチ	2		○	2	
	流通システム論	2		○	2	
消費者行動論	3	○		2		
リテールビジネス論	3	○		2		
オペレーションズ・マネジメント論	3		○	2		
マーチャндаイジング論	3		○	2		
グローバル経済コース	グローバル経済総論 ※	2	○		2	22単位以上(選択)
	金融論	2		○	2	
	経済体制論	2		○	2	
	国際貿易論	3	○		2	
	国際金融論	3	○		2	
	地域研究Ⅰ	3	○		2	
	開発経済学	3		○	2	
	国際経営論	3		○	2	
	地域研究Ⅱ	3		○	2	
	地域経済総論 ※	2	○		2	
	財政論	2		○	2	
	産業立地論	2		○	2	
	ネットワーク産業論	3	○		2	
	中小企業論	3	○		2	
	都市経済論	3	○		2	
公益事業論	3		○	2		
地方行財政論	3		○	2		
不動産論	3		○	2		